

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

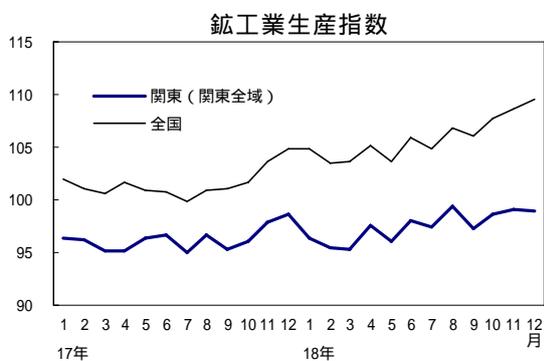
### 前回調査からの主要変更点

|      | 前回 (平成 18 年 11 月) | 今回 (平成 19 年 2 月) |  |
|------|-------------------|------------------|--|
| 住宅建設 | 減少                | 増加               |  |

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、発電機などに使用する蒸気タービンは好調であったものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が伸び悩んだため、減少している。化学は、フェノール・酸化プロピレンなどの樹脂原料が好調であったものの、合成洗剤が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、前期の反動で鋼船が不調であったものの、乗用車に使用する駆動電動操縦部品が好調であったため、3四半期連続で増加している。情報通信機械は、携帯電話の新規モデルが好調であったため、増加している。電気機械は、自動車向けのモーターなどに使用するアルカリ蓄電池が減少したものの、半導体IC測定器が好調であったため、増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年12月の関東は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

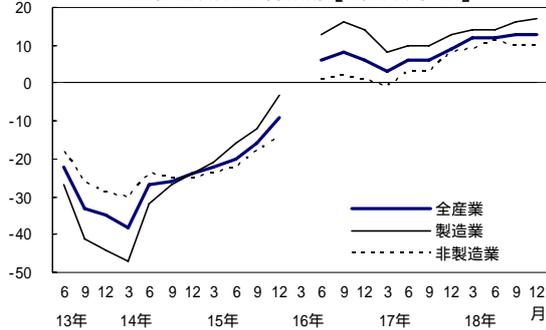
|        | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |             | 出荷          | 在庫          |
|--------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
|        |              | 7~9<br>月期 | 10~12<br>月期 | 10~12<br>月期 | 10~12<br>月期 |
| 一般機械   | 13.8         | 0.5       | 1.7         | 1.9         | 5.0         |
| 化学     | 13.7         | 3.3       | 1.0         | 1.0         | 0.5         |
| 輸送機械   | 11.3         | 1.3       | 3.9         | 4.0         | 5.2         |
| 情報通信機械 | 8.6          | 0.1       | 5.5         | 3.2         | 3.9         |
| 電気機械   | 7.9          | 0.0       | 3.4         | 4.1         | 0.5         |
| 鉱工業    | 100.0        | 0.7       | 0.9         | 1.2         | 1.1         |

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期は速報値。  
3. 10~12月期の化学の生産、出荷は、10月、11月確報値の平均より算出。在庫は、11月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

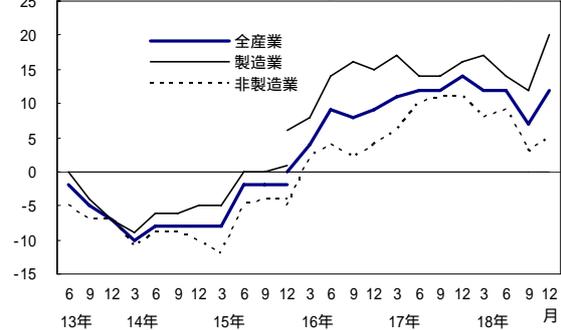
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
関東全域(新潟県を含む)

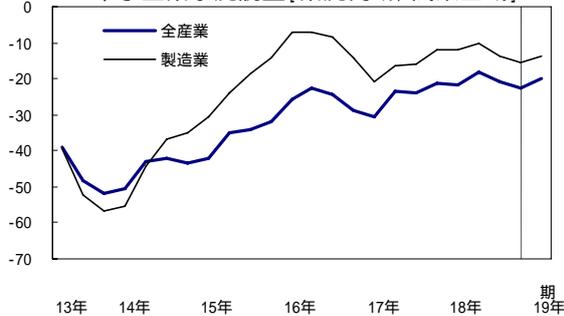
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「オフィス需要は相変わらずおう盛で、賃貸スペースがない状況が続いている。また、空きスペースが出てもすぐ借り手が見つかり、景気は変わらず良い(不動産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

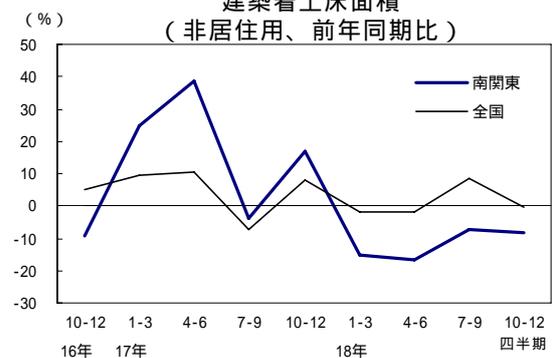
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

|      | (前年度比、%) |            |
|------|----------|------------|
|      | 17年度実績   | 18年度計画     |
| 全産業  | 28.1     | 10.7( 3.7) |
| 製造業  | 30.5     | 12.3( 6.2) |
| 非製造業 | 20.2     | 6.7( 3.7)  |

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

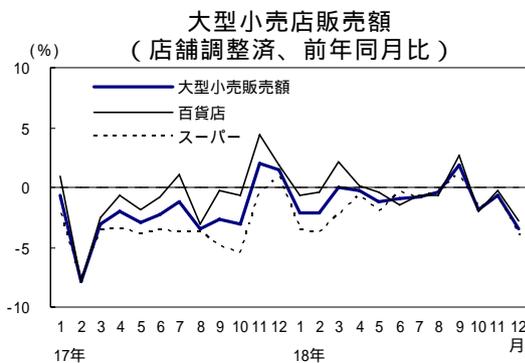
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、気温が高めに推移したことに加え、昨年に比べ土曜日が一日少なかったことや、多雨の影響により来店客数に減少がみられたことから総じて低迷し、2か月ぶりに前年を下回った。11月は、ロングブーツ等の婦人靴やブランド物アクセサリ、ハンドバッグなど身の回り品が好調であったことに加え、歳末ギフト商戦の前倒しが奏功し、飲食料品に動きが見られたものの、引き続き気温が高めに推移したことや、前年売上げの反動から、冬物衣料品等が低迷し、前年を下回った。12月は、暖冬影響や前年売上げの反動から、引き続き冬物衣料品等が低迷したことに加え、クリアランスセール前の買い控えや、歳末ギフト需要を前月に先取りしたことの反動等から、主要品目がおおむね低迷したことにより、3か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の1月の売上高は前年同月比0.1%減となっている。

スーパーは、暖冬による衣料品の不振や多雨による来店客数の減少等により全般的に苦戦したことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

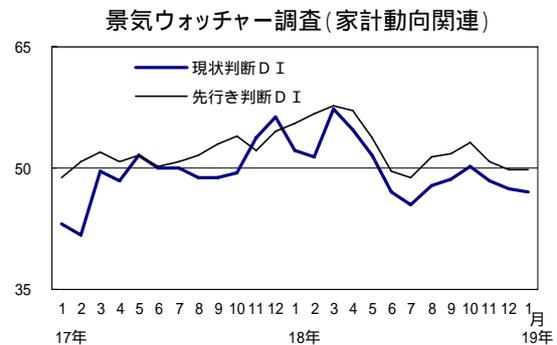
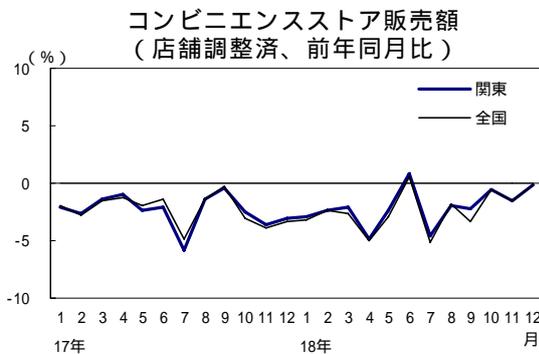
「暖冬で天気も良いせいか、観光客、参拝客がいつもより多く、屋台等で客が目につく。しかし、土産類を買う客はごくまれである(一般小売店[酒類])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



|          | 18年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 |
|----------|---------|------|------|--------|
| 大型小売店    | 1.4     | 0.8  | 0.1  | 2.1    |
| 百貨店      | 0.4     | 0.5  | 0.4  | 1.8    |
| スーパー     | 3.2     | 1.0  | 0.1  | 2.4    |
| コンビニ     | 2.4     | 2.2  | 3.0  | 0.7    |
| 景気ウォッチャー | 53.6    | 51.1 | 47.3 | 48.7   |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

